

水田話

実践体験の村をつくろう

平成六年四月一日にござる。朝七時に起る。

「お父さん、お母さん、おはようございます。天地の神、おはようございます。」

今日も世界の平和をお祈り致します。今日も頑張ります。と。天にお伝えして床から立ち上がる前に、寝た状態で、全身を解して

てから、外に出る。鉛クツをはいて、竹を相手に水を利用しての鍛練をする。

「終わったら、薪を集めに行く。火をおこして、差入れん、もらった。缶コーヒを温め、

竹で、作った竹コップに入れ、飲む。アアア、うまいッ、これにツルミがあったらナ、

パンの買、留めもなしから、ニニ、しばらくは我慢するか、整ったらおさがない、苦しい時には、光れなりにしな、とナ、。。

「現在は、大分生活の流れが変化している」

さあ、今日からは、誰にも気を使かう事なく
活動が出来るぞ！

まずは、私のちゃんとした水の上の部屋を
作ろう。この時は、私自身は、本当に！
本当に嬉しくん！たまらなかつた。

森を貸し入下された方に心の中でなんかい
もお礼をついた。

入居は、思ひだりのない社会では生かされ
ない事を通感し、これを教訓にして、体験村
作りを、この先、ちくちくと続けるべあ

る。

オ五話

体験の森へのオ一号の訪問者

男の子が、犬と一緒に私のところに近がずいてきた。

「ここで何ををし入るのですか？」

オツス、もう、をいいた、犬だな。いつも犬の散歩には、森の中まで入ってくるのか？
「いかなのです、森に人がいると、いこう話し

が広まっ入ります。それで僕が来入みたのですね。」

えうか、もう下界の人に伝わっ入るのか

君はこの近くにいますのか？

「はい篠原です、中一です、どうしてこの森にいるのですか、えし一人です、この森に、こんな山に独る、おれですネ、えうどうの目的が、なければ、こんな山に独るは、往めなしと思います。」

君は、下界で、私の事について、大人たち

から、立ち向かえをいんいたようだナメ、丁度
良いいかに来た。少々話しあげよう。

私は、ナ或道家もあり、タレントも少々し
ているのど、望手ヤタンキヤクを、通うし
てだな。今の社会は、森の素晴し
さも忘れんしまっんいるだろう。

だから、だな、森の力は全人の生カ物に
なくんはならないものだ。 ニシキ がんばるべ
はないが、えのような事、だナ、誰れもが

実践的体験が出来る体験村をつくらうとし

いいるのだ。どうだ。ゆかったか。

「えー、えうだったんですか、感動しまし
た。えりょうな人は、えうまで来た事も、見
た事もありませんヨ。」

私はネ、社会の人が、実行がなない事や
社会に、かけいいることを実行につっし
、伝えんいをたいめじや。

「又ンキヤクをやるのべすが、一度校を見た
いびす。」

私は、ナッ、現在の「トワン」の選手をし

人つたかだ。又ンヤククの杖はナノ世界一の
神杖を身に付け人つるぞ。」「田明流」宮本武
蔵流」を確立したのだ。

君にも丸の内杖を見せ人あげよう。」「
「えーッ。本当ですか。良かった。仙人と呼
んでいいですか。」

ああ。いいとも。

「僕たちが遊べる。」「遊具を作った下さ
い。」「だったら。毎日でも遊びに来ますヨ。」

君が。いま。」「た。」「遊む場の遊具」を作

ん。と。いつ。た。ナ。これは。画期的なことを君
に教えるもらったぞ。ありがとう。……。

「仙人。今日教えるもう。た事は。伝えし
ます。では。帰ります。また来ますから。
覚える。」「ハイ。」「」

この森に初め人。マッ。人。た。篠田君のアイ
デア。心。今日の作業は。私が寝る木の
上の部屋作りと。遊具。作り。ビ。丸は
丸は。大変な。わ。工夫が要求される
しい。目々ある。

一方、私の身体は、あちら、こちらの骨を折ったり、切ったり、傷だらけの体となった。病徳代もないので、自力で治をします。もう、こんな痛たいなら、死んだ方が、いい。と木に頭をブツツケたりした。

この時に下界心は、お金の必要性を通感した。一方、お金心は、かたづけられない。支後の心の力も必要ではないのかも学ばされた。

その、十数年になります。が、体験料は、

ただ、おまん。但し、泊りの場合は食事代をいただく。いるだけです。

どこかに行かれる途中に、私の話を人から聞いた。泊る方が中には、おられます。

このような方に泊り代も食事代も強制は致しません。ですから今だに、貧しい活動です。ですが、心だけは、豊かであるつもりでござる。下界の人にお束ないことを命を賭けん。実行し、いるから、。もう、ここらで、スポンサーがほしい。お金を出し

！口は出るない！心の大きき支援者がほしいナ
！
初め人の来山者と良い出会いができた、
このようにして人、子どもの話を聞く耳をも
つ場を作れば、子どもの「心」は限りなく
開き、また大人も学ばされるのでござる。
篠田君の要望、この私がもらった、あり
がとう、